百瀬 智之

ももせ ともゆき

未来への挑戦
for the future

- 1983年2月4日生まれの38歳
- 穂高幼稚園卒園
- 山形小学校卒業
- 鉢盛中学校卒業
- 松本深志高校卒業
- 中学校・高校はサッカー部
- 中央大学法学部法律学科卒業
- 上智大学法科大学院修了
- 学習塾経営
- 国会議員・県議会議員を歴任

皆さんと歩んだ10年間の足跡

01 ここが私の原点

東京での大学院生活を終えて帰郷。家庭教師のアルバイト経験を活かし、地元で学習塾をひらく。教え子たちのいきいきとした姿にやりがいを感じるうちに、子どもたちの今だけでなく、将来にまで責任を持ちたいと思い立つ。信州の学生たちが一旦は上京しても、「帰りたい地元、働ける地元、活気がある地元」をつくるため、政治の道を志す。生徒たちと和気あいあいと学び合った、古びた教室が私の原点。

02 国会議員時代

「環境の国際会議があるので出ませんか?」という呼びかけに始まった国際会議。都市や平地が多い国の議員、森林に囲まれた国の議員、砂漠地帯の国の議員、それぞれが国を代表して地球の今と未来について熱く語り合った。まだSDGsという言葉が世に出る前だったが、人やモノがバランスよく行き交う循環型社会の構築が21世紀のキーポイントであると痛感する。「環境」や「循環型社会」が自分の政策軸に固まっていく。

03 長野県議会議員 ～1期目～

「あなたの街の取組みが素晴らしいので、政府が全国展開することにしました。」という事例を国会で繰り返し議論してきた。そこで、全国をリードするようなロールモデルを地元でつくろうと、長野県議会議員として活動を開始する。4年間通じて一般質問は毎回欠かさず登壇し、委員会活動では原稿なしで白熱議論し続けた。常に山積する県政課題を見つめ直すうちに、それらを大別すると松本平が“3つの大きなテーマ”を抱えていることに気づく。

04 数字で見る長野県

県内大学の収容力（18歳の若者がどれくらい県内大学に入学できるかという指標）は19.4%で全国45位（2020年度）。
県内出身学生のUターン就職率は33.8%（2020年度）。開業率は3.10%で全国38位（2019年度）。総じて長野県の若者は県外に流出しやすく、出て行ったまま戻って来ず、地元で起業しづらい環境であると言えます。高齢社会を支える若年層の働く場所、住む場所、憩う場所づくりのため、様々な政策提言をしてきました。

05 長野県議会議員 ～2期目～

長野県議会議員として5年目を終えようとしていた頃、直近5年間の県政の歩みを改めて試算し総括する。一見大きな問題点はないが、このペースではあと半世紀たっても「帰りたい地元、働ける地元、活気がある地元」は実現しないと確信。議会でやるべきことは一所懸命やってきたので、それでも埒が明かないのであれば、政治のフィールドをもっと柔軟に使って、背骨が通った政策を大胆に推し進めていこうと思い立つ。松本平が抱える“3大テーマ”に正面から挑戦しようと決意。

さらに詳しく！ 裏面へ続く

振り返る！ 松本平の〝3大テーマ〟と、正面から挑戦したこの3年間

Thema.01「圏域行政の欠如」

現状 中信4市がそれぞれに進めている「〇〇市づくり」は、共通政策が少ない。自治体間の連携も薄く、財政規模が小さい周辺町村はさらに埋没しがちである。我々一般住民にとっては基礎自治体の行政区画よりも松本平全体がひとつの生活圏であるが、中信地区をひとつの圏域と捉えてのスケールメリットを活かした政策が展開されていない。故に圏域全体がまとまらず、地域全体としての魅力を存分に活かしきれていない。

展望 これに対しては県の広域的なガバナンスに期待がかかるものの、長野県行政は4つの平の「均衡」が念頭にあるので、中信地区のみをターゲットとした積極政策を打ち出しづらい。現行の地域振興局や広域連合体の在り方では迫力不足であり、各市町村を名実ともに統率できる行政機関の登場が望まれる。

行動 2019 長野県議会議員選挙公約
「地域振興局の統合・再編」

Thema.02「共通理念の欠如」

現状 塩尻のワイン、松本のお城、安曇野の田園風景、大北のウィンタースポーツ、など観光客目線の話はよく話題に出る。しかし中信地区ではどのような理念が大切にされ、それに基づいてどのようなライフスタイルを実現できるかという話は出てこず、人生設計は個人に委ねられがちである。この地域でどのような人生設計を描けるのか、特に若者の暗中模索は続いている。

展望 活気や趣、あるいは団結力のある地域には住民の間で理念が共有されている。「ここは個人一人ひとりを最も大切にしていて、来訪者も歓迎される自由な土地柄です。」という地域もあれば「ここでは歴史と文化、伝統を第一に考えていて、そのために皆が厳格なルールを順守しています。」という地域もある。果たして中信地区に共通理念はあるか。ゆりかごから墓場まで、人生がトータルデザインされた広域像が住民に示されるべきである。

行動 2020 松本市長選挙公約「環境先進都市の実現」

Thema.03「超広域政策の欠如」

現状 首都圏から帰って来ないのは、若者だけではない。例えば長野県の農産物は、健康志向の高まりとともに県外にもっと売り込めるはずだが、大消費地である首都圏を巻き込んだ骨太な政策を展開できていない。山林資源はさらに深刻で、既に大半が主伐期を迎えている県内人工林は十分な需要を引き出せず、“宝の持ち腐れ”になっている。

展望 こうした資源が県内に留まり、本来還流されるべき対価が長野県に入ってこない一因は、関東甲信に一元的なガバナンス機構がないからだ。一時的なキャンペーンやトップセールスでは効果が薄く、かといって長野県のマーケティング室などにこの役目を求めるのは酷である。大消費地の東京都では周辺地域の資源を如何に活用するかという議論に目が向かず、また既に業務過多の政府・国会にこれらを委ねられるべくもない。戦後から現在にかけて道路網や鉄道網、空港基盤が整備されて人流・物流移動が加速度的に変化したが、都道府県の在り方は明治時代から変わらず、社会経済の実態から乖離している。21世紀には、これらを包括的にガバナンスできる州政府の存在が求められる。

行動 2021 東京都議会議員選挙公約
「統治機構改革」

ありがたいことに、今年の都議選への挑戦も思いのほか大きな反響を頂きました。私はこれからの日本は「国政は外交・防衛、マクロ経済に徹し、激化する国際競争に備えること。内政は行政機関を再編成し、地方政府に一元的に委ねること。そして地方政府の大胆な裁量によって人やモノの往来を活発化させ、活力のある地域づくりを実現するべき。」と考えています。ですから、私が「東京で松本平を語ること」は今の時点でこそ本筋ではないかもしれませんが、いつの日か州政府が誕生し、州議会で議論する際には、ごく自然のことになると思っています。未来を見据えて、松本平の発展のために至る所で声を上げ続ける。それが私の「未来への挑戦」です。

そして今、コロナの脅威
地域の医療福祉、経済はますます疲弊 ―

百瀬智之は いまこの瞬間も、地域課題に全力！

日々の思いをfacebookにて綴っています。

key word
- #コロナ対策に全力！
- #地方活性化
- #環境政策
- #循環型社会
- #公共空間の賑わい創出
- #クリエイティブコミュニティ
- #ICTの積極活用
- #公共交通の再編
- #徒歩圏内の職遊住
- #グリーンインフラ
- #子育てしやすい街
- #自然保育

百瀬智之後援会　〒390-0851 松本市島内4265番地13

百瀬智之 検索